



PRESS Release  
報道関係各位

2019年（令和元年）10月7日  
東京キャラバン広報事務局

## 2020年とその先へ! 新たな創造の“種”が北海道で花開く!!

# 東京キャラバン in 北海道

### <創作の現場を特別公開> 公開ワークショップ

2019年12月21日（土）白老町中央公民館・コミュニティセンター  
2019年12月22日（日）サッポロファクトリーホール

### <公開ワークショップで育んだ創造の種が花開く> パフォーマンス

2020年1月11日（土）、1月12日（日）  
モエレ沼公園ガラスのピラミッド

「東京キャラバン」は、野田秀樹（劇作家・演出家・役者）総監修のもと、言語や国境、表現ジャンルを超えた多種多様なアーティストたちへの参加を呼びかけ、これまでおおよそ交わることのなかった表現者同士の“文化混流”を実現させることで、新しい表現によるパフォーマンスを創出し続けている“旅する文化ムーブメント”です。「Tokyo Tokyo FESTIVAL」の主要プログラムであり、「東京2020オリンピック・パラリンピック」の公認文化オリンピックアードのひとつとして、全国各地で展開しています。

「東京キャラバン」では、2020年1月11日（土）、12日（日）にモエレ沼公園ガラスのピラミッドにて、「東京キャラバン in 北海道」を開催いたします（事前申込制/観覧無料）。また、開催に先駆けて、公開ワークショップを2019年12月21日（土）に白老町中央公民館・コミュニティセンターにて、12月22日（日）にサッポロファクトリーホールにてそれぞれ開催いたします（事前申込不要/観覧無料）。

### 『予告編という名の運命』

「東京キャラバン in 北海道」には、歌手やファッションモデル、女優など多方面で活躍するアーティストの木村カエラ（きむらかえら）さんが初参加。「東京キャラバン」の総監修を務める野田秀樹や“東京キャラバン”アンサンブルたちとともに北海道の歴史や文化を体感し、アイヌ古式舞踊や歌、江差追分など、北海道の文化を担う若手や多彩な表現者たちと、ジャンルを越えて交わり、ともに新しい表現を創り上げます。

また、今回の客人（まれびと）として、2015年の「東京キャラバン～プロローグ～」等に参加した琉球舞踊と、2018年・2019年の「東京キャラバン in 秋田」に登場した男鹿のなまはげの参加も決定しています。

12月には、パフォーマンスの創作の現場であるワークショップを特別に公開します。アーティストたちの“文化混流”と新しい表現が生まれる様子を間近に体験できる貴重な機会です。そして、2020年1月のパフォーマンスでは、公開ワークショップで生まれた創造の“種”が、ガラスのピラミッドという幻想的な空間でいよいよ花開きます。

東京、リオデジャネイロ、東北、京都、熊本、豊田、高知、秋田、いわき、埼玉、富山、岡山を旅して、数々の“わくわく”と“どきどき”を生み出してきた“旅する文化ムーブメント”は、ここ北海道でさらに進化します。どうぞご期待ください！



「東京キャラバン in 秋田」 ①秋田県内(男鹿市)視察の様子(2018年)、② 公開ワークショップ(2018年)③ パフォーマンス(2019年) 撮影:コンドウダイスケ

# 開催概要

名称 : 東京キャラバン in 北海道  
日程 : <公開ワークショップ>  
東京、北海道、沖縄、秋田のすごい文化を表現するアーティストたちが出会い、2020年1月に開催するパフォーマンスに向けての創作ワークショップを行います。その模様を自由にご覧いただける、またとない機会です。

●日時・会場:

2019年12月21日(土) 13:30~17:00 白老町中央公民館・コミュニティセンター  
(北海道白老郡白老町本町1丁目1-1)

2019年12月22日(日) 11:00~17:00 サッポロファクトリーホール  
(北海道札幌市中央区北2条東3丁目)

●観覧:無料、事前予約不要

<パフォーマンス>

公開ワークショップで育んだ新たな創造の“種”が、ガラスのピラミッドという幻想的な空間で花開きます。果たして何が生まれ、何が飛び出すのか?東京キャラバンでしか観ることのできない貴重なパフォーマンスを、是非とも“生”で体験してください!

●開催日:2020年1月11日(土)、1月12日(日)

●会場:モエレ沼公園ガラスのピラミッド(北海道札幌市東区モエレ沼公園1-1)

●観覧:無料、事前申込制

※どなたでもご覧いただけます。車いすでお越しの方はスタッフにお声がけください。

※開催時間や申込方法等の詳細は後日発表します。

参加アーティスト : 野田秀樹、木村カエラ(アーティスト)、“東京キャラバン”アンサンブル(上村聡、川原田樹、近藤彩香、末富真由、手代木花野、福島彩子、的場祐太、吉田朋弘)、沢則行(人形劇師)、公益社団法人北海道アイヌ協会(アイヌ古式舞踊)、ライリー大仁(江差追分)、琉球舞踊(立方:阿嘉修、佐辺良和、大浜暢明、玉城匠 地謡:玉城和樹、和田信一)、男鹿のなまはげ ほか

参加クリエイター : 服部基(照明)、原摩利彦(音楽)、ひびのこづえ(衣装)、赤松絵利(ヘアメイク) ほか  
東京キャラバン総監修:野田秀樹(劇作家・演出家・役者)

主催 : 東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、北海道

協力 : 北海道舞台塾実行委員会(公益財団法人北海道文化財団・北海道)

問い合わせ先 : [info@tokyocaravan.jp](mailto:info@tokyocaravan.jp)



## インターネットライブ中継

「東京キャラバン in 北海道」パフォーマンスをより多くの方にご覧いただけるよう、公式WEBサイトにてライブ中継いたします。詳しくは、後日発表します。<http://tokyocaravan.jp>

※出演者やプログラムは予告なく変更になる場合があります。

# 「東京キャラバン」とは？

「東京キャラバン」は、東京都及び公益財団法人東京都歴史文化財団が2020年に向けて、芸術文化都市東京の魅力を伝える取組「Tokyo Tokyo FESTIVAL」の主要プログラムとして実施しています。劇作家・演出家・役者である野田秀樹の発案により、多種多様なアーティストが出会い、国境／言語／文化／表現ジャンルを超えて、“文化混流”することで、新しい表現が生まれるというコンセプトを掲げ、それぞれのジャンルを超えたパフォーマンスを各地で展開しています。「東京2020オリンピック・パラリンピック」の文化プログラムを先導するリーディングプロジェクトとして実施した2015年の東京・駒沢に始まり、2016年にリオデジャネイロ、東北(仙台・相馬)、六本木、2017年は京都(二条城・亀岡)、八王子、熊本にて、松たか子(女優)、中納良恵／EGO-WRAPPIN'(ミュージシャン)、津村禮次郎(能楽師)、2018年は豊田、高知、秋田にて、黒木華(女優)、熊谷和徳(タップダンサー)、チャラン・ポ・ランタン(アーティスト)など芸術文化界で活躍する様々な著名人が参加し、それぞれの圧倒的なパフォーマンスで48,600人以上の観覧者を魅了しました。2017年度からは「東京2020公認文化オリンピアド」として本格始動し、日本全国の自治体(道府県、政令指定都市、中核市)の中から立候補を募り、共感いただいた44の地域から開催候補地を選出し、2019年度はいわき市(5月)、埼玉県(10月)、富山県(11月)、岡山県(12月)、北海道(12、1月)での実施が決定。第一線で活躍するアーティストや新しい才能と若きパワー溢れる表現者たちを迎え、各地で「東京キャラバン」でしか観ることのできない新しいパフォーマンスを創出してきました。そして、今回、北海道で総監修・野田秀樹が創作します。今後さらに全国各地で「文化サーカス」を繰り広げていくとともに、国や地域を超えた交流を継続的に図ることで、東京2020大会以降の文化的な基盤を創っていきます。

東京キャラバン公式ウェブサイト：<http://tokyocaravan.jp>



東京キャラバン～プロローグ～(2015年)  
撮影：井上嘉和



東京キャラバン in RIO(2016年)



東京キャラバン in 東北(2016年)



東京キャラバン in 六本木(2016年)  
撮影：篠山紀信



東京キャラバン in 京都(2017年)  
撮影：井上嘉和



東京キャラバン in 秋田(2018年)  
撮影：コンドウダイスケ

本リリースに関するメディアお問い合わせ先  
東京キャラバン広報事務局 担当：銭谷・大山  
TEL: 03-6826-8708 Email: [press@tokyocaravan.jp](mailto:press@tokyocaravan.jp)

## 参加アーティスト from 東京キャラバン

### 総監修:野田秀樹(劇作家・演出家・役者)



1955年長崎県生まれ。劇作家・演出家・役者。東京芸術劇場芸術監督。多摩美術大学教授。

東京大学在学中に「劇団 夢の遊眠社」を結成。92年劇団解散後、ロンドンへ留学。帰国後「NODA・MAP」を設立し、『キル』『オイル』『THE BEE』『エッグ』『足跡姫～時代錯誤冬幽霊～』『鷹作 桜の森の満開の下』歌舞伎『野田版 桜の森の満開の下』『One green bottle』など、話題作を次々と発表。海外での創作活動や、歌舞伎、オペラも手掛け、国内外で高い評価を得る。

2015年より『東京キャラバン』の総監修を務め、「人と人が交わる場所に文化が生まれる」をコンセプトにした文化サーカスを日本各地で展開。コンセプトに賛同する多種多様な表現者らと、文化「混流」による独自のパフォーマンスを創作、発表し多くの観客を魅了した。2019年10月より、NODA・MAP新作『Q:A Night At The Kabuki』を上演。表現のジャンル、国境を越え、精力的に創作活動を行っている。

### 木村カエラ(アーティスト)



2004年6月にシングル「Level 42」でメジャーデビュー。

2013年、自身が代表を務めるプライベートレーベルELAを設立。

2014年、メジャーデビュー10周年を迎え、ベストアルバム「10years」、8枚目となるオリジナルアルバム「MIETA」をリリース。同年10月、横浜アリーナ2days公演を成功させた。

2017年5月、JRA『HOT HOLIDAYS!』のCMソングとなっているシングル「HOLIDAYS」をリリース。

2018年4月、初の絵本『ねむとココロ』を出版。同年11月、初のミニアルバム「¿WHO?」をリリース。

2019年6月、メジャーデビュー15周年を迎え、デビュー日の6月23日に日比谷野外大音楽堂にてアニバーサリー公演を実施。同年7月、フルオリジナルアルバム「いちご」をリリース。10月・11月には『木村カエラ LIVE 2019 全国「いちご狩り」ツアー』を開催。

### “東京キャラバン”アンサンブル

(上村聡、川原田樹、近藤彩香、末富真由、手代木花野、福島彩子、的場祐太、吉田朋弘)



2015年「東京キャラバン～プロローグ～」を機に、野田秀樹の創作活動を支えるパフォーマー達によって結成された演劇アンサンブル。野田秀樹が「東京キャラバン」に書き下ろした「物語」を演劇的に表現し、2015年、駒沢『旅立つ前夜～1940年の子供たち～』、2016年、リオ・デ・ジャネイロ、仙台、相馬、六本木での『地球の反対側から来たお話』、2017年、京都『夏の魂の中で』、2019年、秋田『禁断の恋』などのパフォーマンスに参加し、観客を「東京キャラバン」の世界へと誘う。

2015-2019年メンバー：秋草瑠衣子、秋山遊楽、石川詩織、大石貴也、織田圭祐、上村聡、川原田樹、菊沢将憲、黒瀧保士、近藤彩香、佐々木富貴子、指出瑞貴、下司尚実、白倉裕二、末富真由、手代木花野、長尾純子、永田恵実、夏子、野上絹代、野口卓磨、福島彩子、的場祐太、光瀬指絵、柳生拓哉、吉田朋弘

## 参加アーティスト・クリエイター from 北海道

### 沢則行(人形劇師)



1991年に渡仏。92年に文化庁在外研修生でチェコへ。以降、プラハを拠点に世界各国で公演。また、チェコ国立芸術アカデミー演劇・人形劇学部を始め、多くの教育現場で講座、ワークショップを指導した経験を持つ。

1999年、ヨーロッパ文化賞「フランツ・カフカ・メダル」授与ほか、国際的受賞多数。

日本国内では、NHK「ようこそ先輩・課外授業」出演、「みんなのうた」映像制作、2015年さっぽろ雪まつり大雪像×人形オペラ「雪の国アリス」芸術監督をつとめるなど。東京2020NIPPONフェスティバルで巨大人形「モッコ」デザイン設計、製作操演総指揮を担当。

## 参加アーティスト・クリエイター from 北海道

### 公益社団法人北海道アイヌ協会(アイヌ古式舞踊)



東京2020オリンピック・パラリンピックからアイヌ文化を世界へ多様な民族が集う平和の祭典において日本の先住民族アイヌの存在を世界に知ってもらうまたとないチャンス。全てものを敬う心から築かれたアイヌ文化には世界平和に通じるものがある。そんなアイヌ民族の心を、世界に誇れる日本の心の一つとして世界に発信していく取組を進めている。

### ライリー大仁(江差追分)



平成16(2004)年青森県三沢市生まれ。祖母の勧めで5歳から民謡を始める。持ち前の澄んだ高音が魅力で、公益財団法人日本民謡協会平成28年度民謡民舞少年少女全国大会小学456年の部で優勝し、民謡小学生日本一の称号を与えられる。翌29年には日本民謡フェスティバルに民謡小学生日本一としてゲスト出演し、会場となったNHKホールを沸かせた。主な入賞歴に、平成24・25年、民謡民舞少年少女北東北大会123年の部2年連続優勝。平成25年、秋田民謡全国大会低学年の部優勝。平成27年、民謡民舞少年少女北東北大会456年の部優勝。平成28年、秋田民謡全国大会高学年の部優勝、民謡民舞少年少女全国大会456年の部優勝、秋田おはら節全国大会少年少女の部優勝。平成29年、第21回江差追分少年全国大会3位。その他全国大会において多数の入賞を果たす。

## 参加アーティスト・クリエイター from 沖縄

### 琉球舞踊(立方:阿嘉修、佐辺良和、大浜暢明、玉城匠 地謡:玉城和樹、和田信一)



撮影:井上嘉和

沖縄独自の歌舞劇「組踊」と同様、琉球古典音楽と琉球舞踊は琉球王朝時代に宮廷芸能として発展してきた伝統芸能。伝統を受け継ぎつつ、新たな挑戦をし続ける、国内外で活躍する若手、中堅メンバーが参加する。

## 参加アーティスト・クリエイター from 秋田

### 男鹿のなまはげ



「ナマハゲ行事」は、大晦日の晩に秋田県男鹿半島の各集落で行われる伝統行事。ワラで編んだ衣装に独特の面をかぶった集落の青年が神の化身となって家々を回り、年の節目に人々に祝福を与えるという来訪神行事であり、江戸時代後期には既にその記録が残っている。「男鹿のナマハゲ」として国の重要無形民俗文化財に指定され、2018年11月には、ユネスコの無形文化遺産に登録された。

ナマハゲ行事に和太鼓を取り入れて創作された「男鹿なまはげ太鼓」は地元男鹿半島のほか国内外で活動している。